

日本部活動学会

The Japanese Association for
the Study of Extracurricular Club Activities

第2回大会プログラム

2019年3月24日(日)

於：大阪大学・人間科学部（大阪大学・吹田キャンパス）

大会参加申込みフォーム

<https://kokucheese.com/event/index/551760/>

日本部活動学会第2回大会実行委員会

小野田正利・長野いつき・久保玄理・中間茂治

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2 大阪大学・人間科学研究科
教育制度学研究室内（小野田正利）

TEL (06) 6879-8112, 8113（事務補佐：加藤都）

大会に関する問い合わせはE-mail：onoda@hus.osaka-u.ac.jp（小野田正利）へ
電話ではほとんど連絡がつきにくいので、メールでの問い合わせが一番です。但し、1日100通以上のメールがきますので、紛れないために、**タイトル（件名）に必ず「部活動学会大会」とお書き下さい。***パソコンメールしかできませんので、携帯やスマホでメール受信を拒否されている方には、ご返信できません。

なお部活動学会に関する問い合わせはE-mail：jaseca2017@gmail.com（学会事務局）へ

主催：日本部活動学会

共催：国立大学法人 大阪大学 人間科学研究科

後援：一般社団法人 日本部活指導研究協会

日本部活動学会第2回大会の開催にあたって

この大会プログラムをご覧になるころは、まだまだ寒い時期かと思えます。今年はインフルエンザも大流行しておりますので、会員の皆さまがご健康でお過ごしされることを願っています。

さて、今年の日本部活動学会大会から、初めて自由研究発表の場を設けることになり、大会としてようやく一つの体裁を整えることができました。最初の回としては嬉しいことに、14本のエントリーがあり、3つの自由研究発表会場を用意できることになりました。精力的な発表の申し込みをしていただいた会員の皆様、および司会を引き受けていただいた方々にお礼申し上げます。

シンポジウムは、深刻になりつつある「部活動に伴う周辺住民とのトラブル」をテーマにしています。学校は「迷惑施設」としてとらえられる時代ですので、部活動に対する近隣住民からの苦情やクレームも多くなっています。その現状がどうなっているか、またどうやって摩擦を解消するかを、具体的な取組をしてきた学校の実践に学びながら展望します。

情報交換会（懇親会）は、学内のレストランですが、多少は大阪らしい食べ物も用意させていただきますので、ちょっぴりご期待下さい。

交通アクセスは、大阪空港（伊丹）からは、比較的便利なのですが、新幹線「新大阪駅」あるいは「京都駅」からは、1時間ほどを見込んでいただかなければいけませんので、それがネックです。同時に評判が悪いのが、人間科学部の建物構造です。普通の四角い建物ではなく、なんと3方に校舎が延びた「人」という文字の形をしていることです（※そんなん、上から見んと分からへんやろ！）。このため、上の階に行くたびに、「ここはどこ？」となりやすいのですが、できるだけ動線を複雑にしないような会場配置にしました。

なお会員は、大阪大学では私一人であり、大阪府内でもそれほど多くはおりませんが、長野いつき理事、久保玄理会員、中間茂治会員とともに実行委員会を組むことができました。手が回らないことも多々あり、不慣れも重なりますので、ご迷惑やご不満も生じられるかと思いますが、寛大な気持ちでご容赦をいただければと思います。

ぜひ、皆さまのお越しをお待ちしております。

最後に、会員の皆さまへのお願いがあります。学会の重要事項を審議する最高機関が「総会」です。年1回の総会は、大会開催時に開くことになっておりますので、(1)大会に参加される会員の方は夕刻のその総会までのご出席を、(2)欠席される会員におかれましてはぜひとも「委任状」の提出をお願いいたします。

2019年2月

第2回大会実行委員長 小野田正利

大会案内

1. 大会日程【3月24日(日)】

受付 9:00～人間科学部1階、正面玄関

■自由研究発表 9:30～12:00 (会場により 12:30)

自由研究発表1 31講義室(3階)

自由研究発表2 32講義室(3階)

自由研究発表3 41講義室(4階)

昼食 12:00～13:20

◆【理事会】12:10～13:10 46講義室(4階)

※公開シンポジウム打合せ 12:00～13:00 43講義室(4階)

■公開シンポジウム 13:20～16:20 51講義室(5階)

休憩: 16:20～16:40

■総会 16:40～17:40 51講義室(5階)

■情報交換会 18:00～20:00 カフェテリア匠 (たくみ)

2. 会場 大阪大学・人間科学部(大阪大学の吹田キャンパス)

①「大阪空港」からモノレールで「阪大病院前」まで約20分(下車後7分)

②新幹線「新大阪」駅から、地下鉄で北上して(15分)、「千里中央駅」でモノレールに乗り換え(約20分)

③新幹線「京都駅」から、JRで「茨木」まで(25分)、そこから近鉄バスに乗り換え(約20分)

詳しくは2ページ先を参照してください。

3. 会費 ①大会参加費（『発表要旨収録』代を含む）

会員は1,000円 学生会員は無料 非会員は2,000円（学生1,000円）

*参加費をお支払いの方には、当日に『発表要旨収録』を差し上げます。

②情報交換会費（懇親会、参加は任意）正会員・臨時会員共通 4,000円

なお、会員以外の方で小野田科研の「第12回半公開学習会」と抱き合わせの公開シンポジウムのみの参加は無料です（『発表要旨収録』はもらえません）。

4. 情報交換会（懇親会）は、人間科学部の建物から、歩いて3分のところにある カフェテリア匠（たくみ）でおこないます。

〈受付〉

3月24日（日）の当日、9時から人間科学部本館1階玄関にて受付を行います。

〈昼食〉

日曜日ですので学内の学生向けの食堂やコンビニはすべて休業ですが、会場から歩いて5分程度の「阪大病院」内に、コンビニ、食堂、スターバックスなどがあります。

※大会実行委員会では弁当の販売はしませんので参加者各自でご用意ください。

※人間科学部の建物内に、飲み物の自動販売機があります。

〈自由研究発表要領〉

・発表時間

個人研究発表：発表25分、質疑5分（計30分）

※口頭発表者が1名の共同研究の発表を含む

共同研究発表：発表40分、質疑10分（計50分）

・共同研究発表における○印は、口頭発表者を示します。

・発表資料は、各自60部をご用意いただき、大会当日ご持参ください。事務局でのお預かりや当日会場での印刷は受け付けておりません。ご了承ください。

・プロジェクターをご利用の場合は、コンピュータをご持参ください。RGBケーブル、HDMIケーブルを用意します。Macなどをご使用の場合は、接続可能な変換アダプタなど、必要な機材をご持参ください。なお、各会場において9時から接続のテストができるようにしておきます。発表者の責任において接続の確認をしてください。

・発表者がやむをえない理由により欠席する場合は、速やかに大会実行委員会までご連絡ください。なおこの場合、発表時間・発表順序の繰上げは行わず、司会者の判断により休憩または、討議の時間にあてます。

交通のご案内

地図・アクセスについては「大阪大学人間科学研究科・人間科学部」のウェブサイトの情報をご覧ください。

(<https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/access.html>) なお、下記の方が分かりやすいかもしれません。

①飛行機で「大阪国際空港」(伊丹空港)に来られた場合(所要時間35分、※時間帯により55分)

「大阪国際空港」駅(始発駅)から、「門真市」行きの【大阪モノレール】に乗り、6つめの「万博記念公園」駅で下車(乗り換え)。そこで「彩都西」行きの【大阪モノレール】(降りたホームの向かい側のため、移動は簡単)に乗り換え、2つめの「阪大病院前」駅下車。そのキャンパス地図で確認し、徒歩約10分で人間科学部の玄関に到着。

②新幹線で「新大阪」駅まで来られた場合(所要時間40分、※時間帯により約60分)

地下鉄「新大阪」駅から「千里中央」行きの地下鉄(地上を走ります)に乗り、終点の「千里中央」駅で下車。そこからは(A)と(B)の2つの方法がある。

(A) 2階から、大阪モノレール「千里中央」駅へ。そこで「門真市」行きの【大阪モノレール】に乗り、2つめの「万博記念公園」駅で下車(乗り換え)。そこで「彩都西」行きの【大阪モノレール】(降りたホームの向かい側のため、移動は簡単)に乗り換え、2つめの「阪大病院前」駅下車。そのキャンパス地図で確認し、徒歩約10分で人間科学部の玄関に到着。

(B) 地上に出て、バスターミナル⑥番乗り場から「阪大本部前」経由「茨木美穂が丘」行きの【阪急バス】に乗り、「阪大本部前」下車。キャンパス地図で確認し、徒歩5分で人間科学部の玄関に到着。但し1時間に1本(毎時21分発)しかないのでご注意ください。

③新幹線で「京都」駅で降りられて、在来線の東海道線に乗り換える方法もあります(使用時間40分、時間帯により60分)。大阪方面に向かう「新快速」に乗り、最初の停車駅「高槻」で下車、そこでさらに大阪方面への「普通」もしくは「急行」でJR「茨木」駅で下車。茨木駅前のバスターミナル⑥番乗り場から「阪大本部前」行きの【近鉄バス】に乗り(15分間隔で出ています)、終点の「阪大本部前」下車。そのキャンパス地図で確認し、徒歩5分で人間科学部の玄関に到着。



【大阪モノレール】については、平日・土日ともに10時～3時台は「彩都西」行きは20分に1本しかありません。

また【近鉄バス】は日曜日でも15分間隔で運行していますが、ウェブサイトで時刻表をお確かめください。

※印の所要時刻が違うのはその関係です。

宿泊のご案内

会員各自で、ご予約・手配をお願いします。春休み期間中ですので、お早めの予約を。学会HPの「宿泊についての情報」を参照されてください。

【司会】大橋 基博 (名古屋造形大学)

・ 9 : 3 0 ~ 1 0 : 0 0

小学校の部活動に関する一考察～中山間地の小規模校に着目して～

太田 直哉 (名古屋大学大学院)

・ 1 0 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0

部活動のあるべき姿とガイドライン～全員加入制と地域連携の実態

小池 学

・ 1 0 : 3 0 ~ 1 1 : 0 0

高等学校の部活動指導における安全配慮義務

—自転車競技部の公道練習を中心に—

羽田 真 (早稲田大学本庄高等学院)

1 1 : 0 0 ~ 1 1 : 1 0 休憩

・ 1 1 : 1 0 ~ 1 1 : 4 0

部活動指導者に対する法的責任の追及について

○堀口 雅則 (東京21法律事務所)

田原 洋太 (小笠原六川国際総合法律事務所)

・ 1 1 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0

スポーツ指導における暴力への方策に関する研究

—運動部指導者の考えの分析から—

○村本 宗太郎 (立教大学大学院)

田上 悦史

【司会】柴崎 直人 (岐阜大学)

・ 9 : 3 0 ~ 1 0 : 0 0

高校写真部の現状と課題～写真をめぐる環境の変化と写真部への影響～

遠藤 覚 (静岡県立伊豆総合高等学校 / 静岡県東部高等学校写真連盟)

・ 1 0 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0

神奈川県高文連かるた専門部におけるOBOGボランティアの取組

～部活動を基盤とした市民性育成論～

由井 一成 (学習院大学大学院)

・ 1 0 : 3 0 ~ 1 1 : 0 0

吹奏楽部の起源—運動部活動と比較して—

田村 基成 (東海大学付属浦安高等学校)

学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程)

1 1 : 0 0 ~ 1 1 : 1 0 休憩

・ 1 1 : 1 0 ~ 1 2 : 0 0

文化部活動顧問の勤務実態を基にした教師像の再考

—名古屋市における全国大会出場中学校を例にして—

○玉木 博章 (中京大学ほか)

○中村 茂喜 (元名古屋市立中学校教員)

【司会】神谷 拓 (宮城教育大学)

・ 9 : 3 0 ~ 1 0 : 0 0

部活動への哲学的態度—研究の構造と方法—

関 朋昭 (名寄市立大学)

・ 1 0 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0

部活動の今日的な意義を考える

— 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)「特別活動」の視点 —

中尾 豊喜 (大阪体育大学)

・ 1 0 : 3 0 ~ 1 1 : 0 0

学校教育としての部活動の機能と役割の再考—経営的視点からの整理—

○伊藤 功二 (兵庫教育大学院)

有山 篤利 (兵庫教育大学院准教授)

森田 啓之 (兵庫教育大学院准教授)

1 1 : 0 0 ~ 1 1 : 1 0 休憩

・ 1 1 : 1 0 ~ 1 1 : 4 0

「自治」からみた部活動における主体性形成に関する枠組みの検討

中島 輝 (立教大学大学院)

・ 1 1 : 4 0 ~ 1 2 : 3 0

生徒が楽しめる部活動のあり方

— ニュージーランドと日本との国際比較研究における部活動季節性の観点から —

○西尾 建 (山口大学)

○富山 浩三 (大阪体育大学)

○三島 隆明 (大阪体育大学)

学校部活動と近隣トラブル

【コーディネータ】小野田正利 (大阪大学)

*「学校保護者関係研究会」(小野田が科研費・基盤研究(A)17H01021の代表者として組織している科研研究会)が研究成果の社会貢献として実施している「第12回半公開学習会」との共催企画として実施します。

【報告者】

- ・ 中間茂治 (会員、藍野高等学校教諭(運動部系部活動顧問))
- ・ 林直哉 (非会員、長野松本深志高校教諭、生徒会・放送部顧問)
- ・ 柳原真由 (非会員、慶應義塾大学1回生・「鼎談深志」の創始者)
- ・ 橋本典久 (非会員、騒音問題総合研究所代表、八戸工業大学名誉教授)

【企画の趣旨】

1. 学校部活動問題を考えるにあたって、相当に深刻で現実的な問題として「学校周辺住民からの苦情・クレームによる部活動への影響」という問題がある。地域性や競技種目によっていくぶんの違いがあるが、部活顧問たちが時として、この問題に大きな悩みを抱えていることは明確な事実である。「部活動は迷惑だというクレームで活動時間を縮小」「音をめぐる苦情で、窓を閉めて活動していたら生徒が熱中症に」「住民が生徒とロゲンカを始めた」——この20年あまりの間に、都市部だけでなく全国各地で、学校と近隣住民との間に生じる摩擦が大きくなっている。

中学校や高校での運動部活動の実施をめぐるのは、音と声そして校外での活動に関する苦情が中心である。「野球部の朝っぱらからのかけ声」「テニスの打球音」「体育館から響く音」「公道を使った大勢のランニング」「大きな道具を持ち込んでの車両空間の独占」などに対する苦情は昔からあったが、いまでは明確に被害行為として教育委員会や学校に対策を講じるよう要求が出される時代に入った。穏便におさめようとして、多くの学校は「内向き」指向に入り、微に入り細にわたる生徒への注意喚起と部活動時間の制限や活動範囲の縮小へと進む。すると生徒たちは「学校周辺の住民からの苦情で自分たちの活動がどうして制約されなければならないのか」とイラダチを募らせ不満が高まっていく。

2. 「子どものことだから大目に見る」という寛容性は一部では残っているが、他方で住民からは「我慢にも限界がある」と感じることも少なくない。環境基準や騒音防止条例では、工場から出る騒音も学校からの騒音も同じ扱いである。「子どもの発達・学習権の保障」と「隣人住居の平穏という人格権の保障」を、どうやって両立させていく

ことが可能なのだろうか。「公共的施設だから」「昔からここにあった」という理由や説得では収まりがつかなくなってきたいま、紛争やトラブルを少しでも緩和しながら、双方が「折り合い」をつけていくためには何が必要か。学校が、一般的に住民にとって望ましくないと考える公共的施設＝「迷惑施設」あるいはNIMBY（ニンビー）（not in my backyard、私の裏庭には作らないで）にさせないために、どのような改善策を考案していくかが、必要かつ喫緊の課題となってきたことは明確である。

この場合に重要なポイントは、トラブル解決の主役は、学校の教職員ではなく当事者として子ども（生徒）であること、学校も地域に住まう住民の一人として自覚できているかどうかである。別の言葉に置き換えれば「主体性」と「当事者性」ということになる。

3. 具体的な行動を起こしはじめた高校生たちがいる。長野県立松本深志高校では、学校から出る音のトラブルを、生徒たちが近隣住民（町内会）との話し合いの中で解決しはじめ、実績を積み重ねている。2016年秋に、一人の女子生徒が立ち上がり、周りの生徒に呼びかけて行動を起こし始め、直接に住民の人たちと話しながら妥協点をさぐる道を模索する。学校の教職員の了解をとりつけ、各町内会を訪問してアンケート調査をし、周辺の140軒の家を手分けし個別訪問して意見聴取を重ね続け、2回にわたって「高校から出る音」についての住民代表との意見交換会を開催にこぎつけた。この会合の場で、生徒たちが苦勞し腐心し部活動をしている姿を、住民たちも「初めて知る」ことになった。印象的なのは、応援団が和太鼓をタオルとビニール袋で覆って消音に努めていることであった。「やっぱりノビノビと部活動をさせてあげなきゃいけない」という思いを持ち始め、他方で生徒たちも住民の目線に立って考えることの大事さに気づくことになる。

こうして2017年5月に、松本深志高校地域フォーラム「鼎談深志」が発足した。その設置要綱の冒頭は次のように謳う。《私たち松本深志高等学校、生徒、教職員、近隣五町会は、ともに協働し、松本深志高校を取り巻く地域コミュニティのよりよい関係を目指し、広範な対話と工夫を尽くして課題を解決するためにこの要綱を定める。》つまり、単に音の問題だけでなく、防災、災害準備を含め、学校と近隣住民に関わる課題の協議の場の創設である。これら一連の経緯をまとめた映像を同校の放送部が制作し、その作品「鼎談深志～私の新委員会創設物語」（8分間）は、NHKが主催する全国高校放送コンテストの第64回大会（2017年）の「テレビドキュメント部門」で優勝という快挙に輝いた。

4. 今回のシンポジウムは「学校部活動と周辺住民とのトラブル」に焦点をあてて、その現状と紛争解決の道筋を考える場としたい。柳原真由氏は、この当事者であり、林直哉氏は生徒会顧問として、この変化に富んだ経緯を静かに見守り、生徒たちの主体性を支え続けてきた教師である。橋本典久氏は、音をめぐるトラブルの専門家として、数々の事案の考察を重ねてきている。会員の間中茂治氏は、屋外スポーツとして最も苦情の多い野球部や硬式テニス部の顧問を長く務め、地域住民との関係改善に配慮をしてきた経験を持つ。コーディネータは、保護者対応トラブルと同時に、学校の抱える近隣トラブルを科研費研究として追究し、『迷惑施設としての学校—近隣トラブル解決の処方箋』（時事通信社、2017年）の執筆者である小野田正利が務める。

総 会

16:40~17:40

51講義室(5階)

情報交換会

18:00~20:00

カフェテリア 匠 (たくみ)

人間科学部の玄関から出て、徒歩3分